

ニセコ町学校評価委員会 評価報告書

平成25年度版

(平成26年3月31日作成)

ニセコ町学校評価委員会

～ 目次 ～

1	平成25年度の委員会活動の状況	P 2
2	各学校・幼児センター共通の重点目標、評価の観点	P 4
3	各学校・幼児センターにおける評価結果	
	【No.1】共通重点目標 「分かる授業」を目指した授業改善の推進 (幼児センター:「楽しく遊ぶ」ことができる環境構成)	P 5
	【No.2】共通重点目標 特別支援教育の充実	P 7
	【No.3】共通重点目標 読書活動の推進	P 8
	【No.4】共通重点目標 防災教育・安全教育の推進、安全管理の徹底	P 10
	【No.5】共通重点目標 外部人材の積極的活用	P 11
	【No.6】共通重点目標 学校情報の積極的な発信の充実	P 12
	【No.7】共通重点目標 服務管理の徹底	P 13
4	ニセコ町全体としての評価のまとめ	
	【No.1】共通重点目標 「分かる授業」を目指した授業改善の推進 (幼児センター:「楽しく遊ぶ」ことができる環境構成)	P 15
	【No.2】共通重点目標 特別支援教育の充実	P 16
	【No.3】共通重点目標 読書活動の推進	P 17
	【No.4】共通重点目標 防災教育・安全教育の推進、安全管理の徹底	P 17
	【No.5】共通重点目標 外部人材の積極的活用	P 18
	【No.6】共通重点目標 学校情報の積極的な発信の充実	P 18
	【No.7】共通重点目標 服務管理の徹底	P 18
5	今後の取組について	P 19
6	ニセコ町学校評価委員会 構成委員	P 20

◎ はじめに

平成25年3月に文部科学省の委託研究事業による「実効性の高い学校評価・情報提供の充実・改善に向けた取組に関する事業」を受託し、「ニセコ町学校評価ガイドライン」を作成しました。

平成25年度からこのガイドラインに基づいたニセコ町学校評価委員会を組織立てしました。

ニセコ町学校評価委員会の取組の特徴は、幼児センターからニセコ高校までにおけるニセコ町の子どもたちの成長過程について、設定した共通項目について同じ目線で捉えながら、子どもたちの成長を考えていくことです。

学校教育の業務は多岐に渡っておりますが、その中から共通の重点目標とそれに関わる共通の評価の観点を設定し、幼児センターからニセコ高校まで連携した学校評価を模索しながら進めてきました。

今年度、各学校の評価結果をもとに、ニセコ町全体の評価結果としてまとめました。

1 平成25年度の委員会活動の状況

① 第1回ニセコ町学校評価委員会

- 日程 平成25年7月29日（火）
- 場所 ニセコ町役場第二庁舎
- 内容
 - ・委員長等の選出
 - ・ニセコ町学校評価ガイドライン及びニセコ町学校評価委員会設置要綱について
 - ・各学校、幼児センターにおける本年度の学校評価について
 - ・学校評価委員会で報告する学校評価報告書の共通様式について
 - ・共通の重点目標の設定について
 - ・アンケートの自動集計について

② 第2回ニセコ町学校評価委員会

- 日程 平成25年9月11日（水）
- 場所 ニセコ町役場庁舎
- 内容
 - ・共通重点目標に係る各学校・幼児センターで設定した指標と取組状況について

③ ニセコ町学校評価委員会第1回作業部会

- 日程 平成25年10月7日（火）
- 場所 ニセコ町役場 第二庁舎
- 内容
 - ・共通重点目標ごとに共通の評価の観点と共通のアンケート項目を作業することの確認。
 - ・各学校の役割分担を共通重点目標ごとに決定。

④ ニセコ町学校評価委員会第2回作業部会

- 日程 平成25年10月15日(火)
- 場所 ニセコ町役場 第二庁舎
- 内容 ・各学校で作成した「評価の観点」及び「アンケート項目」について協議検討。

⑤ ニセコ町学校評価委員会第3回作業部会

- 日程 平成25年10月28日(火)
- 場所 ニセコ町役場 第二庁舎
- 内容 ・各学校で作成した「評価の観点」及び「アンケート項目」の修正及び集約。

⑥ 第3回ニセコ町学校評価委員会

- 日程 平成25年12月9日(月)
- 場所 ニセコ町役場 第二庁舎
- 内容 ・共通重点目標に係る共通の評価の観点とアンケート項目について
・共通重点目標に係る評価結果の付け方について
・ニセコ町学校評価委員会の報告書様式について

⑦ 第4回ニセコ町学校評価委員会

- 日程 平成26年3月10日(月)
- 場所 ニセコ町役場庁舎
- 内容 ・共通重点目標に係る各学校・幼児センターの評価結果及びニセコ町としての評価結果のまとめについて

2 各学校・幼児センター共通の重点目標、評価の観点

ニセコ町学校評価委員会及び同委員会作業部会において、ニセコ町の幼児センターからニセコ高校まで全部の学校が同じ視点で評価を行うことから、ニセコ町学校評価ガイドラインから平成25年度の共通の重点目標、共通の評価の観点、共通のアンケート項目を設定しました。

なお、共通重点目標の「No.1「分かる授業」を目指した授業改善の推進」の他に、「幼児センター：「楽しく遊ぶ」ことができる環境構成」と別に設定しており、幼児センターでは授業ではなく、楽しく遊ぶということに取り組んでいることから、学校とは別の目標を設定しました。

学校評価 共通の評価の観点及びアンケート項目

項目	共通重点目標	共通の評価の観点	アンケート項目		
			教職員向け	児童生徒向け	保護者向け
分かる授業、楽しい学校・幼児センター	No.1 「分かる授業」を目指した授業改善の推進(幼児センター:「楽しく遊ぶ」ことができる環境構成)	①授業改善のための校内研修の充実 ②効果的な指導方法や指導形態の工夫 ③教育課程改善に向けての取組	①校内研修に積極的に取り組み、教育課程の改善が図られている。 ②子どもたちが、意欲的に取り組める環境が整っている。	①学校での勉強は、よくわかる。 ②先生は、わかりやすく丁寧に教えてくれる。	学校は、分かりやすい授業をめざして取り組んでいる。
	No.2 特別支援教育の充実	①配慮を要する幼児、児童生徒に対する支援のための研修の充実 ②個別の教育支援、指導計画の作成・実施 ③特別支援学級への校内支援体制の充実 ④特別支援教育への保護者理解	①特別支援研修に積極的に取り組み、授業や教育課程の改善が図られている。 ②個別の指導計画、教育支援計画が整備され、個に応じた指導が行われている。		学校は、特別支援教育について、十分な支援を行っている。
	No.3 読書活動の推進	①朝読書(一斉読書)の取組状況 ②図書館利用、読書活動の状況 ③「あそぶっく」との連携	①児童生徒の読書習慣の確立に向けた取組がなされている。 ②学校図書館やあそぶっくは、活用されている。	①本を読むのは、好きだ。 ②学校図書館やあそぶっくを利用している。	①子どもは、家庭でよく本を読んでいる。 ②子どもは、あそぶっくや学校図書館をよく利用している。
	No.4 防災教育・安全教育の推進、安全管理の徹底	①安全管理や事故防止を意識した取組の推進 ②危機管理マニュアルの等の作成状況と改善充実	①交通安全・防犯教室や避難訓練は計画的に推進されている。 ②迅速に対応できる危機管理マニュアルが整備され活用できるようになっている。	①交通安全教室や避難訓練の意義を理解して真剣に取り組んでいる。 ②学校は、安全で安心できる場所となっている。	①学校の環境は、子どもにとって安全で安心な場になっている。 ②急な対応にも、学校は応じてくれている。
ン学家庭 タ校庭 の幼地 連児域 携セ、	No.5 外部人材の積極的活用	地域の方のゲストティーチャーなど積極的な外部人材の活用	地域、保護者など外部人材を取り入れた活動がなされている。	講師の先生(学校外から来てくれた先生)との授業など、積極的に参加している。	子どもは、学校の先生以外のさまざまな人との交流を通して、地域の良さを実感している。
夕校情 報 幼発 信 す る 学	NO.6 学校情報の積極的な発信の充実	①学校だより等の内容の工夫や充実 ②ホームページ、ブログによる情報発信	学校だより等、各種たよりやブログなどインターネットを通して、保護者に関心のある内容を工夫して、積極的に情報発信ができています。		学校は、各種たよりやブログなどインターネットを通して、保護者の知りたい情報、内容を積極的に、発信している。
夕学 校 運 営 幼 児 セ ン	NO.7 服務管理の徹底	①教職員の服務規律の遵守 ②コンプライアンスに関する研修の実施	①各種報告や届けを提出し、文書・個人情報の管理を適切に行っている。 ②体罰・金銭事故・交通安全等について、実効性のある研修が行われている。		

3 各学校・幼児センターにおける評価結果

平成25年度における共通の重点目標、評価の観点、アンケート項目により、各学校・幼児センターで学校評価の集計を行い、各学校・幼児センターごとの共通項目の評価結果を作成しました。

- 【No.1】 ・共通重点目標 「分かる授業」を目指した授業改善の推進
 (幼児センター：「楽しく遊ぶ」ことができる環境構成)
- ・共通の評価の観点
- ① 授業改善のための校内研修の充実
 - ② 効果的な指導方法や指導形態の工夫
 - ③ 教育課程改善に向けての取組

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
幼児センター	<ul style="list-style-type: none"> ・環境整備を次の二点について取り組む。 ・物的環境整備 ・人的環境整備 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・物的環境整備については、今後園児の増加も予想されることから増築も含め検討に入っている。 ・人的環境整備については、現職研修を推進する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の拡張整備が必要。 ・保育者の研修に対する取組が素晴らしい。 ・研修で報告されたことが日々の業務に活かされていない
ニセコ小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・全員による授業共同研究と授業実践(年6本実施) ・公開研究発表会の実施 ・算数科のTTによる複数配置、習熟度学習の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の更なる活用(スマートボード、デジタル教科書)を視野に入れた授業実践。 ・授業交流の更なる充実(新年度から新たな研究主題に取り組む。) 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・どの学級も落ち着いた授業の雰囲気ができている。 ・児童の発言を取り入れやすい授業環境ができている。 ・パソコン等のICTの活用はたいへん良いが、低年齢化していることから健康面にも配慮が必要になるであろう。
近藤小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修と連動させ、真に子どもを学びの主体とし6年間の子どもの学びを分断することがないよう学習規律、授業の定型化、ノートづくり等に取り組んできた。子どもの学びの姿として具体的な成果が見られている。 ・こまめに定着度を確かめ、学びの実感と自信を増す指導が行われている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・6年間での共通指導事項をさらに明確なものとし、全校的徹底化を目指す。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども自身が勉強が楽しく、よくわかるとしていることに取組の成果の全てが表れている。短いスパンで定着度を確かめ、少人数を強みにした指導が行われている成果である。

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
ニセコ中学校	<p>・指導主事を招聘しての校内研究授業を2回(理科・社会)実施し、2ブロックの研究発表会でも研究授業(理科)を実施。保護者の要望等に応え、授業参観日に保健体育科の武道の授業を実施するなど、公開に努めた。しかし、上記のような取組を進めたものの、研究は深まらず、授業公開も不十分であるという反省の声が多かった。</p>	C	<p>・本校の研究の活性化に向けて、広く授業等を公開し、多くの意見をもらうことで、研究や取組の充実を図る。また、「わかる・できる」授業づくりの一層の工夫として、チャレンジテストの活用を工夫するなどして基礎・基本の一層の定着を図る。今回の生徒の回答の67%(わかる)、71%(きめ細かい)を80%以上を一つの目標として取り組む。</p>	C	<p>・テスト前の勉強会や長期休業中の教科相談、英検、漢検をはじめ、TT指導など、授業や学習指導について、工夫改善に取り組んでもらっていることは十分に理解している。ただ、今はテスト前の指導が少しゆるいような気がする。もっと厳しく勉強させてほしい。子どもの意欲を引き出すような指導をしてほしい。</p>
ニセコ高校	<p>①授業研究、生徒による授業評価、研修成果の報告等を通して、授業改善と学び方指導の充実を図った。実施時期、対象教諭については、戦略的に実施すべきだったと反省している。</p> <p>②各種研究会へ参加した成果を校内研修会で報告した。商業科目では研修会で模擬授業を実施し、数学では観点別評価について実践例をもとに研修をした。</p> <p>③農業科を中心に他教科が連携して実施するグリーンライフについて、時間をかけた議論をおこない、6次産業化、地域を生かしたカリキュラムへ議論を進めた。</p>	B	<p>・研究授業の機会を増やし、教員間での授業評価を授業力向上に生かす。特に、新採用や期限付き教諭については、前期に集中して研究授業を実施する。</p> <p>・バル席の徹底、忘れ物の根絶、授業中の私語禁止等、基本的な授業規律の徹底を、全教員で統一して指導する体制をつくる。</p> <p>・特色あるプロジェクト学習に向けて、シラバス作成段階から教科間の連携を密にし、教員間の協力体制の構築を図る。また、地域や大学・専門学校との連携による質の高い実習の充実を図る。</p>	A	<p>・教員経験の浅い先生や赴任して1年目の先生などに対する研究授業や授業支援等を厚くするのは良いと思います。</p> <p>・科目担当教諭にサポート教諭を加えた複数教員による授業等の実施など、個に応じた授業を進めて頂きたい。</p> <p>・特に、プロジェクト活動は成果を上げていると考えます。プレゼンテーション能力も身に付くと考えますので、今後も、今まで以上に力を入れることを期待します。</p>

【No. 2】 ・共通重点目標 特別支援教育の充実

・共通の評価の観点

- ① 配慮を要する幼児、児童生徒に対する支援のための研修の充実
- ② 個別の教育支援、指導計画の作成・実施
- ③ 特別支援学級への校内支援体制の充実
- ④ 特別支援教育への保護者理解

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
幼児センター	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に園内特別支援委員会を開催する。 ・小学校の特別支援委員会との連携を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターの育成と専門的知識を持った支援員を配置する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の支援計画の見直しが必要である。
ニセコ小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・年5回のパートナーティーチャー訪問とカンファレンス会議を実施し、特別支援学級の児童だけではなく、通常学級に在籍する特別に支援を要する児童についての実態検討を実施した。 ・特別支援教育の啓発リーフレットを作成し保護者や地域への理解を求めたが十分とは言えない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・通常学級に在籍する特別に支援を必要とする子の“個別の指導計画の作成”、保護者への理解を深めていく。 ・保護者はもとより、パートナーティーチャー、心理士、保健師、医師、教育委員会等、特別支援児童を取り巻く関係機関とは更に密なる連携を築いていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校内体制がしっかりできている。保護者との連携や困り感のある児童への対応(配慮)成長の様子の見取りも良い。 ・リーフレットを活用して保護者・地域へ更なる理解を図って頂きたい。 ・困り感のある子だけではなく、その回りの児童への心のケアも今後は必要であろう。
近藤小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を通して児童への接し方や支援の仕方を学ぶことができ、それらを活かして実践することができた。 ・個別の支援計画について、全体での周知や確認がなされていくことが必要である。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の支援計画の充実、活用を図るとともに個人カルテとの併用で、より個への対応をきめ細やかにする。 ・さらに研修を深め、個々の教師の指導力向上を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級の子の日々の成長する姿をうれしく思う。これからもどの子にとっても居心地のいい学校、自分の居場所のある学校づくりを進めてほしい。
ニセコ中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級担任を講師とした校内研修の開催、生徒の実態や指導の状況にかかわる校内特別支援委員会、校内研修等を3回以上実施した。 また、関係機関との連携を図った定期的なケア・ケース会議(保護者・町教委・保健師・発達支援センター等)やパートナーティーチャーと連携した指導等により指導の改善充実を図ることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も個々の生徒の課題を的確に把握し、方法を吟味し、計画的な指導を一層追求する。また、学校全体という視点にたち、特別支援の取組等が通常学級での指導とうまく連動するよう、双方向の理解を深める。支援員の有効な活用を図り、教育活動を推進する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・すばらしい取組をしていると思う。特別支援学級の生徒がディサービスセンターや生活の家との交流を行っていることも良い取組だと思う。

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
ニセコ高校	<p>①学習障害など特別な支援が必要な生徒の把握と対応及び指導法に関する研修の充実を図った。特に外部講師、スクールカウンセラーを活用した研修を実施することができた。</p> <p>②生徒による授業評価の結果を分析し、学習困難な生徒の早期発見及び補講等を行った。また、実習中の体調不良者のケアも養護教諭との連携のもと、事前に対応ができた。</p> <p>③特別支援コーディネーターとして保健主事が各種研究会に参加し、資料等を教職員へ伝達をした。</p> <p>④担任や寮担当教諭と保護者との連絡が密になるよう校内で統一して取り組んだ。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学習障害的な傾向を持った生徒に対しては、特別支援研修等を今まで以上に取り組むとともに、個に応じた指導を計画的におこなう体制の強化を図る。 ・生徒の授業評価を受けて改善を図った授業について、担任や他教科の教員が検証できるよう研究授業の時期を効果的に設定する。 ・特別支援に関しては組織的に取り組む必要があるため、特別支援関係の研究会への参加については全教員が参加できるよう計画する。 ・特別支援に係る生徒の指導については、指導内容を詳細に記録し、関係する教職員が見ることができるようにする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導については、良く指導されていると考えます。今後においても、継続的な指導を期待します。 ・本年度のスクールカウンセラーとの連携による指導については理解した。今後も継続して取り組んで頂きたい。 ・いじめを含め、様々な問題について、未然防止の観点で指導して頂きたい。

【No. 3】 ・共通重点目標 読書活動の推進

・共通の評価の観点

- ① 朝読書（一斉読書）の取組状況
- ② 図書館利用、読書活動の状況
- ③ 「あそぶっく」との連携

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
幼児センター	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の日課に「絵本読み聞かせ」を位置づける。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「あそぶっく」との連携を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「あそぶっく」と連携して今後も読み聞かせを積極的に取り組んでほしい。
ニセコ小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読では、あそぶっくの読み聞かせを14回実施した。また、昼も年8回実施して頂いた。 ・子どもたちの本を読む時間は増えつつある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・あそぶっくとの連携は次年度も継続する。 ・家庭での読書活動について児童アンケート等で実態を調査し、対策を検討していきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本を読むことの楽しさを更に伝えるとともに、本を読む機会(家読)の推奨を図ってほしい。 ・ビブリオバトルを含め本の紹介の工夫で読書への意欲の充実を図っていく。 ・あそぶっくとの連携は継続してほしい。

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
近藤小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・読書への関心が高く、朝に限らず一日の中で読書をしている姿を目にすることが多い。 ・直接「あそぶっく」に行くことが少ない子どもたちにとって、「小さな本だな」の活動の意義は大きい。 ・朝の一斉読書の取組について再確認を要す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・読書好きの子が多く進んで本に親しむ姿が数多く見られていることを大切にしながら、組織としての朝読書のあり方を再検討し、学校全体で進めていく。 ・「小さな本だな」の読み聞かせ等は、今後もお願いをしていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・近藤小の子たちの意欲の高さは「あそぶっく」のボランティアでの訪問時にも感じている。連携を図りながら、読書指導の充実に向けた取組を継続してほしい。
ニセコ中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・6月（4日～12日）と11月（19日～29日）に朝読書週間を実施。あそぶっくとの連携のもと、本を選定し、読書の充実を図った。年間を通して、昼休みに図書コーナーを多くの生徒が利用し、盛況だった。町民学習課との連携のもと、図書館のコーディネイト研修に協力した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書について、生徒総会で「朝読書の時間をもっと長くしてもよかったのではないかと感じた」という反省があるなど、生徒の受け止めは概ね好評で、静かに本を読む環境ができたと感じている生徒の声もあることから、次年度も継続し、可能な限り充実を図りたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は教職員アンケート、保護者アンケートに、読書活動の推進にかかわる項目を起こさなかったため、次年度よりアンケートを改訂し、評価等ができるように改善を図る。
ニセコ高校	<ul style="list-style-type: none"> ①後期に入り、1学年で朝読書を開始した。落ち着いた状況で授業に入れており、成果と考える。次年度も継続して実施していく。 ②生徒への調査で、読書習慣が「おおむねある」が30%超あることがわかった。該当生徒を核に日常的に読書に親しむ雰囲気を作っていく。 ③生徒への調査で、あそぶっく利用者は25%程度であることがわかった。関係機関等との連携を図り、利用率の向上の方策を検討したい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館、あそぶっくと連携し、良い本の紹介、読書の魅力等を生徒に伝える活動を計画する。 ・図書委員による図書館運営の支援を強化し、生徒主体の図書活動となるよう指導・助言をおこなう。 ・読書週間やビブリオバトル等の図書活動を設定し、意識や興味の向上を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に支援を進めて頂きたい。

- 【No. 4】 ・共通重点目標 防災教育・安全教育の推進、安全管理の徹底
- ・共通の評価の観点
- ① 安全管理や事故防止を意識した取組の推進
 - ② 危機管理マニュアルの等の作成状況と改善充実

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
幼児センター	・避難訓練の中に、「原子力防災訓練」を新たに入れる。	A	・事前通知しない訓練を今後行う。	A	・今後も防災意識を高めてほしい。
ニセコ小学校	・毎月1回“安全点検日”を設け、全教職員で点検に努めた。 ・地震・津波、風水災害、原子力災害、アレルギー等新たに危機管理マニュアルを作成し、体制の整備を整えた。	B	・安全点検日は今後も継続していく。 ・破損や不具合等には町教委との連携を密にして素早い対応を行っていく。 ・原子力防災訓練を、生徒指導の分掌に据えるとともに、実施計画を立て全校で取り組むようにしていく。	A	・安全マップ、危機管理マニュアル等は、きめ細かいものがしっかりと整備されているたいへん良い。 今後も継続するとともに、充実を図ってほしい。 ・これからも、校舎内外校区の安全管理に努めてもらいたい。
近藤小学校	・子どもたちの安全を守るための教職員の役割を重視した防災訓練を実施した。 ・原子力防災を加え危機管理マニュアルを更新した。	B	・学校での取組を家庭・地域に発信し、情報を共有しながら安全教育の推進を図る。	B	・学校の環境が子どもたちにとって安全、安心であるとの評価が高いことに自信をもって取り組んでほしい。
ニセコ中学校	・今年度新たに、原子力防災避難訓練の実施にともなう危機管理マニュアルを作成した。また、警察等外部講師による薬物乱用防止教室の開催など、各種の防災安全教育の充実を図った。	B	・計画的な防災安全計画（4月 交通安全教室、5月 火災避難訓練、7月 水の事故防止指導、10月 原子力防災訓練、12月 食育指導、2月 薬物乱用防止教室など）に基づき、無理なくタイムリーに実施する。	B	・学校としてはよく取り組んでいると思う。今後も適切な実施と内容の改善充実に努めてほしい。
ニセコ高校	①性や薬物、交通安全、心身の健康に関する指導について、授業や講演、農業クラブの取り組みとして、組織的に実施できた。交通安全指導については、倶知安警察署、道南バス、ニセコ町交通安全協会等との連携による実施ができた。また、生徒指導部による通学時間帯での町内巡回等をおこなった。本校生徒の交通事故はゼロであった。	B	・マンネリにならないよう、性や薬物の講演については、講師や実施時期、方法等の再検討を図り、効果的な運用を図る。 ・防災訓練については、より現実的な方法や状況で実施することとし、実施結果の検証を全教職員でおこない、その内容を共有する。また、危機管理マニュアルの定期的な確認、および改訂をおこなう。	B	

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
ニセコ高校	②危機管理マニュアルについては、4月と9月に改訂した。9月の改訂については、原子力防災についての項目を追加した。 校舎の老朽化による故障等への対応が、多く発生し、事務等との連携がスムーズに進まず、時間がかかる場合があった。	A	・防災訓練については、より現実的な方法や状況で実施することとし、実施結果の検証を全教職員でおこない、その内容を共有する。また、危機管理マニュアルの定期的な確認、および改訂をおこなう。 ・校舎の老朽化にともない、汚破損箇所を多く目にするようになっているが、安心して安全に学校生活を送るためにも、できるだけ早い修繕をおこなう。	A	・校舎、設備等の老朽化については、様々な機会を通して支援のお願いをしていかなければならないと考える。 ・修理等をしながらか、大切に使用するよう指導をお願いします。 ・危機管理については、厳密にしっかり対応して頂きたい。

【No. 5】 ・共通重点目標 外部人材の積極的活用

・共通の評価の観点

① 地域の方のゲストティーチャーなど、積極的な外部人材の活用

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
幼児センター	・町内の小、中、高校生との交流を行う。	B	・小、中、高校生との交流だけでなく、今後は広く町民との交流を考えていかなければならない。	B	・インターナショナルスクールとの交流を考えてみてはどうか。
ニセコ小学校	・5年生の“田植え体験”、6年生の“戦争体験講話”など、外部人材を活用した取組を行うことができた。	B	・田植え教室や戦争講話は継続していく。 ・ニセコ町ならではの人材を生かし、“キャリア教育”とリンクした外部人材の活用を検討していく。	B	・キャリア教育を含め、ニセコ町に在住しているプロフェッショナルな方との出会い得る機会、活用の充実を図ってもらいたい。 ・食の関心からニセコの農家の様子を何かの機会で紹介してはどうだろうか。
近藤小学校	・機会は多くはないが、必要に応じてゲストティーチャーを招いた学習が行われている。 ・地域に学び、地域の人とふれあう機会が良く作られていると捉えている保護者が多い。	C	・積極的に協力して下さる方が多いという地域の教育資源を生かした学びの機会を今後も作り出していく。	B	・子どもたち、学校への協力は惜しまないという地域の特性を生かして学びの豊かさを広げてほしい。
ニセコ中学校	・総合的な学習の時間で自分たちの町と職業への理解を深めるため、ニセコ町長をはじめ、レストラン経営者、農業経営者、観光コンサルタント等各種の地域人材を活用し、学習の充実を図った。	B	・地域人材の活用に加え、有島記念館での学芸員の講話などにも取り組み、好評だったことから、人材・施設の有効な活用を通して地域に根ざした学習指導の一層の充実を図る。	A	・取組や内容が充実していると思う。保護者からも聴いてみたかったという声があるので、いろいろな方法で知らせてもらえるとなお良いと思う。

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
ニセコ高校	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導と農業クラブ活動で、外部人材を講師とした活動が多く実施できた。 ・進路指導では、連携協定を締結している札幌国際大学、各種専門学校、後志教育局進路指導員、NPOを招聘した進路指導が実施できた。 ・農業クラブ活動では、ニセコ町の農業・酪農経営者等による農業技術の指導、各種発表会への助言等を頂く実践ができた。 ・これらの実践は、進路意識の向上、農業に関する専門性の高まり、各種大会での入賞などの成果へとつながった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・良い実践ができたと評価するが、より効果的な時期の設定は、課題としてある。生徒の状態や各種行事等の日程を考慮し、柔軟に対応できるよう連絡調整を図る。 ・農業関係については、できるだけニセコ町在住の方に依頼したいと考えている。そのため、様々なメディアを使って情報の収集に努める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実績をしっかりと出し、地域への広報活動をさらに活発に行うことを期待します。 ・地域に密着した活動は、評価されている。継続・発展させてほしい。 ・今まで以上に町立学校としてのメリットを発揮願います。

- 【No.6】
- ・共通重点目標 学校情報の積極的な発信の充実
 - ・共通の評価の観点
 - ① 学校だより等の内容の工夫や充実
 - ② ホームページ、ブログによる情報発信

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
幼児センター	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評議委員会の内容を全職員で共通理解する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の体制で2年から3年続ける。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、幼児センター経営充実に力を注いでほしい。
ニセコ小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりは、月1回定期的に発行することができた。内容を更に充実していきたい。 ・ホームページや、ブログの更新の頻度はとても低かった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりの裏面については、前年度踏襲にならないように工夫をしていきたい。 ・校内体制を複数体制として定期的に更新できるようにしていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ブログの更新については、文章を長々載せるのはたいへんだらうから写真等のエッセンスを多く載せること等でもっと手軽な紙面の更新を行っていけば良いのではないかと。 ただし、画像の掲載については、個人情報等の細心の注意が必要。 ・地域の施設や学校関係機関等のバナーを更に活かしたホームページの紙面にしてはどうだろうか。

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
近藤小学校	・HPや学校・学級だよりにより積極的に発信してきた。保護者からも高い評価を得ている。	A	・今後もHPや学校だより、学級通信等により「見える」「わかる」「伝わる」学校づくりを進める。	A	・学校だよりやHPにより学校からの情報発信がよくなされている。今後もタイムリーに知らせてほしい。
ニセコ中学校	・ブログは、今年度も担当の努力により毎日更新し、日々の様子を発信した。学校だよりについては、教科の学習予定表や全国学力学習状況調査の結果とそれに伴う取組など、学校としての方針や取組を周知し、開かれた学校を目指した。	B	・今後も通信類については、事前の確認点検等により、内容の充実を図るとともに、学校としての考え方を発信するという機能を重視し、作成に努める。ブログ等については毎日の更新を第一の目標に継続に努力する。	A	・学校としてはよく取り組んでいると思う。学校便りの内容をみると、今は大変な時代だと思う。ブログについても、毎日、続けることは本当に大変だと思うが頑張っ続けてほしい。
ニセコ高校	①定期的に学校だより「心ひとつに」を発行した。全学年で毎日、学級だよりを発行し、保護者へ教育活動全般について情報発信をおこなった。 ②ホームページ及びブログ「ニセコ高校日記」の更新は、頻繁におこなっている。定期的に閲覧している保護者もあり、学校の雰囲気や生徒の学習での様子をリアルに伝えることができた。	A	・保護者による学校評価の結果、「学校からの情報の少なさ」や「どのような教育活動を行っているのかわからない」という評価をする人が1学年の保護者に多いことがわかった。このことから、次年度は、新2学年及び新1学年を中心に確実に情報が届く対策を立て、実行する。 ・一般公開として町民センター等で実施する各種発表会に、多くの保護者が参観して頂けるよう、広報の仕方を工夫する。	A	・やはりコミュニケーションは大切です。保護者や地域と問題意識を共有できるしくみづくりが大切だと考えます。 ・今まで以上に効果的な広報活動を期待します。

【No. 7】 ・共通重点目標 服務管理の徹底

・共通の評価の観点

- ① 教職員の服務規律の遵守
- ② コンプライアンスに関する研修の実施

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
幼児センター	・保育者の服装、言動、交通安全について学習会をもつ。	B	・保護者への対応について全職員で話し合いをもつ。	A	・現状にあったサービスの学習を深めてほしい。
ニセコ小学校	・朝の打合せ、職員会議等で、服務規律については遵守を図った。 ・コンプライアンスに関する研修は計画通りに行えなかった。	B	・次年度は、コンプライアンス研修を校内研修の時間に設けていくように努める。 ・服務規律については、常に新しい情報を教職員に伝え、遵守に努めていく。	B	・信頼される学校づくりに向け、職員一人一人の自覚を高めていってもらいたい。

学校名	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価	
				評価	学校関係者評価でいただいた意見・要望等
近藤小学校	・研修や声かけは有効に機能している。	B	・個々の職員の意識が高いことに甘んじることなく、今後も引き続き、研修の機会を設けていく。また、日常的な声かけ等、同僚性の発揮を大切にしている。	B	・先生方の常識が問われる時代である。先生方を育てる職場づくりをすすめ、個々の教職員の資質向上を図ってほしい。
ニセコ中学校	・6月に金銭事故防止、交通違反防止、7月に体罰等にかかわる望ましい指導、12月に情報管理、2月に金銭事故防止の研修等を実施。その他、個別にも指導。	C	・今年度は関連する項目によって評価したが、次年度はこの項目をアンケート等に起こして、評価改善を図る。	B	・教職員の内部の問題なので、外部からはわかりにくいですが、教職員アンケート結果などから、改善すべきことは改善してほしい。
ニセコ高校	①定期的に、教育局やニセコ町教育委員会からの通達を活用して服務規律の遵守については、働きかけている。 また、実際に起きた事案の概要と処分内容について、資料提供も行っている。 ②職員会議、年度末反省会議でコンプライアンスに関する資料を使った研修を行った。	C	・服務規律の保持については、定期的に研修を行うとともに、相互牽制が働き、事故を未然に防げるような校内体制を構築する。 ・私費会計について、早急に私費会計マニュアルの作成を図り、マニュアルに沿った金銭管理がなされるよう努める。 ・管理職は、町民に誤解を与えかねない行動や言動等がないよう、教職員のサービスを厳正に管理していく。	B	・教職員の金銭事故を防止し、健全に運用されるためにも、私費会計マニュアルの策定と適切な運用をお願いしたい。 ・教職員の服務規律の保持については、引き続き厳密に臨んで下さい。

4 ニセコ町全体としての評価のまとめ

7つの共通重点目標に係る各学校・幼児センターの評価結果を基に、共通の評価の観点により同じ視点で評価を行い、ニセコ町全体としての評価結果をまとめました。以下、共通の評価の観点ごとにまとめています。

【No.1】

- ・共通重点目標 「分かる授業」を目指した授業改善の推進
(幼児センター：「楽しく遊ぶ」ことができる環境構成)

・共通の評価の観点

① 授業改善のための校内研修の充実

各学校において校内研修を組織的に充実することで努めています。ニセコ町校長会の研修事業で全国的な教育の流れについて触れることができ、また教員が参加した研究大会等の報告を行なうことで、研修成果を学校ひとつに留まることなく、町内の学校全体に還元することができ、参加できなかった教員に対しても授業力の向上に繋がりました。研修の成果を町内外に広げていくことで、学校改善や学力向上に繋げることができます。校内研修や公開授業の取組方法については、各学校の実情に応じて取り組んでおりますが、今後町内外の学校以外の関係者の参加を含めた、開かれた校内研修の充実に努めていきます。

② 効果的な指導方法や指導形態の工夫

各学校において、加配教員の活用による習熟度別少人数指導や、授業改善、研修活動の情報共有、教員間の連携などにより、学力の向上を図ってきました。「分かる、できた」と実感するためには、T T教員の加配による習熟度別少人数指導などで、教員の役割分担をもっと考え、児童生徒個々の能力に応じてコースを分けたりするなどにより、児童生徒個々の学力の充実がなくてはならないため、今後も研究をしていかなければならない分野でもあります。I C T機器については、各学校で学年や教科に応じた使い方をしています。今後も、I C T機器の有効活用など多様な指導方法等を積極的に取り入れ、個に応じた指導や児童生徒が「分かる、できた」と実感する授業を構築し、基礎基本の定着を図ります

③ 教育課程改善に向けての取組

各学校において、校内研修や研究授業等の成果を活用し、教育課程改善に向けて進めています。高校においては新たにグリーンライフの教科について校内教員間で議論を深め、カリキュラムの作成を行っております。特にニセコ町は、幼児センターから高校までの関係職員が集まって話し合いができるという良い特徴があり、共通の項目について子どもたちの状況を話し合うことができる場があります。次年度も教育研究の成果を活かしたカリキュラムの改善や学校・教員・教科間の連携をさらに深め、教育課程の改善に向けて取り組みます。

【No. 2】

- ・ 共通重点目標 特別支援教育の充実
- ・ 共通の評価の観点

① 配慮を要する幼児、児童生徒に対する支援のための研修の充実

各学校の特別支援学級担任教師による校内研修やニセコ町校長会の研修事業による講演会で外部講師を活用した研修会を実施しました。研修によって特別な支援を要する児童生徒への対応・支援方法などを学校教員全体で捉えることができ、全体的に特別支援教育の充実に向けた成果がありました。できるだけ多くの教員が特別支援教育に関する研修を受講できる機会が今後も一層必要とされます。また、障害の広さや種類の違いにより、子どもたちの支援の問題を解決していくための研修を充実していく必要があります。

② 個別の教育支援、指導計画の作成・実施

個別支援計画・指導計画にあたっては、各学校で保護者の理解を得ながら作成を行っており、支援計画を充実するためには、さらに保護者に特別支援教育への理解を深めていただくとともに、特別支援を要する児童生徒へのきめ細かな対応が必要とされます。また、通常学級に在籍している児童生徒の対応や学習困難な生徒に対する補講の実施や体調不良生徒への対応など、学校内で連携した対応がとれており、今後も継続した取組・連携が必要です。また、現在使用している個別支援計画・指導計画の様式は北海道教育委員会が作成した様式を利用していますが、地域の実情に合わせたスタンダードで使いやすいものにするため、様式改訂の検討を進めていきます。

③ 特別支援学級への校内支援体制の充実

校内研修や特別支援教育に関する研究会の報告、また校内特別支援委員会の開催により、校内の教員が連携して相互にサポートする体制ができました。また、幼児センターと小学校の特別支援の連携により、新就学児童の個々の状況や支援方法の検討、小学校に就学してからの児童の成長の状況などが確認でき、今後も継続した連携やサポートの体制が必要であります。また、ニセコ小学校と近藤小学校の各学校長の協力により、新就学児童健康診断のときに保護者に対する就学説明会を行い、新就学児童の保護者の不安に対する質問にも答えることができたので、今後も継続して取り組みます。

④ 特別支援教育への保護者理解

ニセコ小学校で保護者向けに特別支援教育に理解をしていただくための啓発リーフレットを作成し、保護者に配布しました。リーフレットの内容と保護者から見た特別な支援を要する子どもが合致しないということもあり、今後も啓発を続けていく必要があります。学校関係者評価からは「リーフレットを活用して更なる理解を深めていただきたい。」との意見もあることから、次年度に向けてニセコ町としての啓発リーフレットの作成をするため、保護者に理解していただくための内容をニセコ町教育支援委員会で検討します。

【No. 3】

- ・ 共通重点目標 読書活動の推進
- ・ 共通の評価の観点

① 朝読書（一斉読書）の取組状況

各学校で絵本の読み聞かせや朝読書は、着実に進められている。朝に読書を行うことで次の時間の授業に落ち着いて入ることができるなど、取組の効果は大きいと捉えます。

② 図書館利用、読書活動の状況

子どもたちの読書への感心は比較的高い傾向にあります。小中学校の図書館の利用は、一日の中では特に昼休みが多く利用されています。高校においては、読書習慣が全体的に少し低い傾向にありますが、読書に親しむ雰囲気作りに努めています。学校関係者評価でも読書活動の取り組みの継続の意見が多いことから、来年度は、学校図書室支援員の配置を行い、学校図書館内の環境整備、図書の選書作業、関係機関の連携などのサポートによる活用により、図書館の一層の充実を図ります。

③ 「あそぶっく」との連携

あそぶっくの職員による本の読み聞かせの活動は好評です。あそぶっく職員と共同で選書作業や本の読み聞かせ、学校図書館の環境整備を行うなど、あそぶっくとの連携は学校にとって必要なものとなっています。また、中学校では、町民学習課との連携により、図書館のコーディネートの研修を実施しました。今後、学校図書館を児童生徒がより利用しやすく、また図書館に入りやすい環境をどのように作るか、また読書をするためのきっかけや機会を作るための動機付けが必要です。

【No. 4】

- ・ 共通重点目標 防災教育・安全教育の推進、安全管理の徹底
- ・ 共通の評価の観点

① 安全管理や事故防止を意識した取組の推進

各学校において、地震・火災を想定した避難訓練の他、泊原発の事故発生により原子力災害が発生した場合のニセコ町防災訓練に参加しました。訓練の積み重ねにより各学校の危機管理マニュアルの見直しを行い、非常時に安全に行動できるようにするための危機管理意識の向上を図ることができました。また、学校施設の安全点検を実施し、学校施設を安全かつ安心な場所として維持するため、教育委員会と学校の連携を図ってきました。今後、避難訓練がマンネリ化しないよう様々ケースを考えて実施するとともに、ニセコ町ならではの安全教育として雪崩の危険性を学ぶ教育の機会について検討を行ないます。

② 危機管理マニュアルの等の作成状況と改善充実

各学校で危機管理マニュアルを作成しておりますが、新たに原子力災害に伴う危機管理マニュアルの改訂作業を現在進めています。防災訓練などの実施により、毎年危機管理マニュアルの見直しは必要であり、校内の全職員が検証を行うことで、非常時において迅速な対応をとることができます。

【No. 5】

- ・ 共通重点目標 外部人材の積極的活用
- ・ 共通の評価の観点

① 地域の方のゲストティーチャーなど、積極的な外部人材の活用

各学校において、町内の外部人材による様々な体験学習や講演、学習活動が実施され、内容も充実されています。幼児センターでは、町内の学校の児童生徒との交流が行われ、今後は町民との交流も検討していきます。学校関係者評価でも好評な意見が多く、外部人材を活用したキャリア教育の一層の推進が求められています。今後、教育委員会において、社会教育とタイアップしながら外部人材リストの作成や整理を行い、各学校における外部人材の積極的な活用を推進していきます。

【No. 6】

- ・ 共通重点目標 学校情報の積極的な発信の充実
- ・ 共通の評価の観点

① 学校だより等の内容の工夫や充実

学校だよりや学級だよりは、各学校で定期的に発行されており、保護者や地域住民に学校の様子や教育活動を伝えることができました。この取組は今後も継続していくことで学校への理解と協力を得ることが期待されます。内容についても毎年構成やレイアウトを工夫していくことで、わかりやすい充実した情報発信を行っていきます。

② ホームページ、ブログによる情報発信

各学校のホームページやブログは、情報担当の教員の努力によって更新を行い、学校の様子をいち早く伝えることができました。ブログは、日々の情報発信の手段であることから、更新の頻度が低くなる時は、学校全体でサポートする体制が必要です。

学校関係者評価においても好評な意見が多いことから、閲覧者に見やすく、わかりやすい内容の情報発信を継続していきます。

【No. 7】

- ・ 共通重点目標 服務管理の徹底
- ・ 共通の評価の観点

① 教職員の服務規律の遵守

服務規律の遵守は、学校外からの信頼を気づくためにも、学校職員個々の意識だけでなく、職員全体による声かけ等の方法で遵守を図っています。特に交通事故・交通違反、体罰の禁止、金銭事故防止など、各学校において職員会議や研修などで、服務規律の遵守について働きかけを実施しており、今後も継続した取組が必要です。学校関係者評価でも職員一人ひとりの資質向上や自覚を高めることが望まれています。

② コンプライアンスに関する研修の実施

各学校でコンプライアンスに関する研修を実施しました。法令やルールなどを遵守することは業務を進めるうえで重要であり、必要とする法令等の知識を蓄積していくことも必要であります。各学校の研修では、常に新しい情報を取り入れた資料を活用して進めていくことが必要です。

5 今後の取組について

ニセコ町学校評価委員会では、ニセコ町学校評価ガイドラインに基づいた実践を行ってきました。

各委員・各学校職員の協力により各学校の子どもたちの成長に関して同じ目線で考え、その成長と課題を確認する場として取り組むことで、学校評価を機能させることができました。

今後もニセコ町教育振興基本計画とニセコ町教育行政執行方針に照らし合わせて、共通の重点目標を定め、ニセコ町の子どもたちの成長過程を共通の評価の観点という同じ目線で確認していくことで、子どもたちどのように成長しているかを捉えることで、学校運営の課題と改善点を整理しながら、ニセコ町学校評価の充実した取組を進めていきます。

◎ ニセコ町学校評価委員会 構成委員
 (任期 平成25年4月1日～平成26年3月31日)

区 分	職 名	氏 名
ニセコ小学校	校 長 (ニセコ町学校評価委員会 委員長)	新井 融
ニセコ中学校	校 長 (ニセコ町学校評価委員会 副委員長)	廣澤 信弘
近藤小学校	校 長	齊藤 信之
ニセコ高等学校	校 長	板東 眞一
幼児センター	園 長	菊地 勇
ニセコ町 PTA 連合会	会 長	山野 美昭
地域住民等	あそぶっくの会事務局長	矢島 誠
事務局	教育長	菊地 博
事務局	学校教育課長	加藤 紀孝
事務局	学校教育係長	三橋 公一